

健康文化

名大を定年退職して

加藤 武夫

42年間勤めた名古屋大学を今年の3月定年退職し、4月から新設2年目の学校法人中西学園・名古屋学芸大学に勤めています。一事務職員の思い出ですが書かせていただきました。

私は昭和36年に名大の事務局に就職、以来経理部が20年近くと最も長く、理学部、アイソトープ総合センター、医療技術短期大学部、大学院国際開発研究科、法学部、医学部を経験いたしました。今年の退職者の中で全く他の機関へ一度もでることなく名古屋大学内の純粹培養な形で退職したのは私くらいでしょう。「出世はいらぬから外にはでないと」明言していたのですが、理由が一つありました。地域でアマチュア劇団を主宰していたので、続けるためには外の機関には出たくなかったのです。自分の趣味の世界ですが、自宅の敷地に稽古場を建ててやっている活動ですから簡単には放り出せません。大学当局に「大変な仕事をしている」ということを吹聴しました。時の部長の紹介で「文教ニュース」という広報誌に2度ほど紹介され、私の趣味は公認(?)されました。この劇団は今も続けており、これまで450回以上の公演を重ね、地元はもとより国際的には韓国との交流も10年以上に上っています。アイルランド、ベルギー、ハンガリーなどとの交流も楽しんでいます。

ところで、私が名大で経験した部局はそんなに多くはありませんが、名大が右肩上がりの成長期のはしりで、どの部局でも創設や、新しい事業等、大きなかつ困難な仕事をさせていただきました。そのいくつかを拾ってみると、まず、アイソトープ総合センターは創設の部局で、私が新米の初代掛長でした。初めての仕事も多く、センター長と侃々諤々の日も多くありましたが、全体にはアットホームな楽しい職場でした。日本で最初のタンデトロン（天然放射能測定

装置) のアメリカからの輸入という大仕事もありました。20年前の当時、1台が2億円もするシステムで「契約時全額前払い」という、まだどこの大学も経験したことのない難問題を抱えての契約でした。予算不足と導入機器の情報不足で困難がありましたが、世界で2号機、日本では初の導入を何とかスタートできました。

医療技術短期大学部では、理学療法学科と運動療法学科の2学科の立ち上げでした。学科の創設理由や、何人療法士が必要なのか文部省・総務庁に説明するために、骨折等年間の病人の患者予測と必要な療法士のシミュレーションをして、どうしても必要であるということを数字の上で示しました。その後、某国立大学が概算要求のため文部省に相談に行ったら、「名古屋大学がいいデータを作っていた」と聞き訪ねてくれました。私たちが作成した資料に説得力があったからだと思っています。

国際開発研究科は、創設して3年、2代目の事務室長でした。時の研究科長と一緒に東奔西走して創設の足場を築きました。新築なった建物の整備、トヨタ自動車の社長、国際協力事業団の総裁、中日新聞社の編集長という今考えると凄い大物を呼んでのシンポジウムを開催したり、国際開発関係の研究科長会議を創設開催したり（持ち回りでなく名大で当初固定開催でした）、学生30名が1ヶ月という長期間の海外実地研修の実施や、これをNHKと交渉して研修を密着取材して放映してもらうなど1年半の短期間でしたが、我ながらダイナミックな活動でした。その後事務局に戻ったのですが、病院の西病棟の建設に伴い、病棟の物品整備の応援と称して東山地区から4人の助っ人を抱えて約7ヶ月応援に行きました。暇な職場で退屈していましたから（不謹慎ですが、そんな職場もあるのです）、自ら手を挙げて応援を買って出ました。13階建、約500床の病室の整備で、有り余る「予算を消化する」といった感じでの物品調達でした。今の現状からは夢のような話ですが、（財政が厳しい中でもそんな場合もあるのです）現在、中央診療棟が建築中ですから、完成の時は担当は大変な1年間を過ごすことでしょう。

法学部では、大学院の重点化の時でした。文科系4部局が先を競っていましたが、法学部は準備が遅く、すでに文学部と経済学部の文科省説明が済んでい

ました。ともかく土俵に乗せてほしいと事務局長に懇願して文科省に持ち込んでもらいましたが、他の部局より先んじて重点化を実現しました。ちょっと他部局のねたみを買ったようですが…。前年には、非実験講座の実験講座化で予算が増額、大学院の重点化でまた増額、予算が合計6割の増額になっていました。傘立て一つ買うのも教授会承認が必要な部局でしたが、がらりと様相を変えました。弾みをつけた法学部は、時あたかも創立50周年に向けての準備に入りました。2億5千万円の寄付金を募って、アジアの法政情報収集や、そのセンターの建築、寄付講座の新設を計画しましたが、バブルの弾けた後だけに困難を極めました。学部長はじめ学部執行部と知恵を絞り、総長はじめ、同窓会や財界幹部に働きかけて、法学部を挙げて寄付金集めに集中しました。目標には及ばなかったものの、2億円を集めて建物の新築、センターの設置までは出来ました。そして輝かしく法学部創立50周年を祝うことができました。

一方、寄付講座をあきらめ、省令施設として「法政国際協力研究センター」の概算要求を準備しました。私たちは、大学事務局から「もうこれ以上動くな」といわれるほど積極的に文科省、外務省、国際協力事業団等と働きかけました。結果、名大に何と「農学」に次ぐ2つ目の国際協力センターとして「法政国際協力研究センター」が実現しました。

法学部が乗り出した法整備支援は、計画経済から市場化経済へ向かう途上国への支援が中心の仕事ですが、学部長とともにアジア各国を訪問して、総理大臣、教育大臣、司法大臣、厚生大臣、裁判所長官等との面談等やニーズの調査を現地の日本大使館や国際協力事業団の協力で進めました。大学間の国際学術交流協定や留学生も一気に増えました。

この法整備事業は時代の要請に応じてもの見事「あたりました」。法人化前の時代を先取りした事業だったと思いますし、ここに自分も一役果たせたことはラッキーなことでした。法学部は、新しい発展に向けての展開を開始したと思います。

私は、この経験を最後の職場医学部で、ヤングリーダーズ・プログラム（途上国から行政官を留学生として招聘する1年間の修士課程・略称 YLP）の実現に役立てました。医学部長らとともに11ヶ国の途上国を回って、保健大臣を始めとする医療・保健関係の行政トップと会い、国の保健事情やニーズの調

査を行いました。文科省留学生課や、YLP 推進会議議長を何度も訪問して、また、前文科省事務次官、厚生省事務次官らを訪ね協力をお願いして、概算要求を実現することができました。この成功には、法学部をはじめとする留学生、国際協力事業団等の皆さんの熱心な協力をいただきました。

医学部は2年間の在職でしたが、医・病事務の一元化という「魔物」のおかげで、結局のところ事務は病院事務局に統合されたような感じで、自分らしい仕事は殆どできませんでした。この頃になってにわかに病院の「経営マネジメント」について云々されることが多くなりましたが、従来 of 病院経営は、文科省（医学教育課）と大学事務局と病院事務局で行われてきており、良くも悪くも全ての責任は彼らにあるといっても過言ではないと思っています。病院事務局幹部は、異動官職ですから、2ないし3年で他の機関へ変わっていき、大赤字だろうが不良債権をどれだけ抱えようが、みんな出世していきました。病院構成員の必死の努力もむなしいものです。

最後に私の名大生活の中で法学部が「マネージング担当教官」として迎えたといってくれたことは想像もしなかったことで、事務官冥利に尽きるできごとでした。大学当局の「今加藤がやめたら困る」で実現ができませんでしたが、私にとっては大きな勲章をいただいたと思っています。

また、定年の10年ぐらい前から私にもにわかに国際化しました。途上国を何度も訪問するたびに「日本人として生まれてよかった」という実感を味わいました。カンボジアの病院でみた患者さん、フィリピンのスラム街でみた子供たち等、自分にできることは何かと考えさせられました。今は国境なき医師団やユネスコ協会に貧者の一灯を送り続けています。

私が廃車にしたワゴン車は、2台もアフリカの大地を走っています。留学生と一緒に大学の使わない車庫いっぱい古着を集めてアフリカに送りました。

大学行政で痛感したことは、大学行政の中核は文科省派遣の異動官職の官僚に握られていることでした。本当に名大のために全力を挙げる人もいましたが、最近は少なくなってきました。部局が一番困ったのは人事です。今病院の某課には4人の病人を抱えています。一課になぜという疑問は誰でも持つことでしょう。どこの部局も多くの病人を抱えています。人事異動時期が来れば、

そんな人間をぐるぐると回して「よし」です。人材の再開発を検討して欲しい、そんなWGを作れといっても真剣に努力をしません。勿論、方法も彼らにはわからないのでしょうが。自分の力不足を痛感すると同時に、歯がゆい思いで一杯でした。これに立ち向かえる人材が、地元の間にも残念ながらいないということです。

今、名大を去り、私学で働きながら感じることは、名古屋大学は本当に偉大だと思います。多くの人材をかかえ毎日でも新聞紙上を飾れるだけのニュースや話題を持っています。宝の宝庫です。情報も豊富です。今後の発展を期待しています。

多くのことを多くの先生や仲間から教えていただき、助けられながら無事定年を迎えられたことに感謝をしています。ありがとうございました。

今後もこの名大の力を借りて私学で頑張りたいと思います。

*文中、文部科学省を文科省で省略して統一記述しました。

(前名古屋大学医学部事務部次長)